

第 156 回 日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会

プログラム

2023年9月9日（土） 13：00～18：30

テーマ「コロナ禍後の輸血医療の変化」

会場：東京都赤十字血液センター

13：00～13：05

開会挨拶

例会長： 津野寛和（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

13：05～15：10

シンポジウム

「コロナ禍後に輸血医療、血液事業はどう変化したか？」

座長： 岡崎 仁（東京大学医学部附属病院輸血部）

座長： 室井一男（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

S-1. コロナ禍で血液事業はどう変化したか？

紀野修一（日本赤十字社血液事業本部）

S-2. 東京都の供給はどう変化したか？

牧野茂義（東京都赤十字血液センター）

S-3. 医療機関の輸血医療はどう変化するか？

コロナ禍で見た非常時の輸血療法への対策

名倉 豊 他（東京大学医学部附属病院輸血部）

S-4. 移植医療はどう変化したか？

市田晃彦 他（東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科）

S-5. コロナ禍後に造血幹細胞移植はどう変化したか？

藤原慎一郎（自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部）

15:10~15:20

休憩

15:20~16:40

一般演題

座長： 奥田 誠（東邦大学医療センター大森病院輸血部）

座長： 大河内直子（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター検査部）

- 0-1. 当院におけるコンピュータクロスマッチの導入効果の検証
小堀恵理 他（東京大学医学部附属病院輸血部）
- 0-2. 母親由来の IgG1 型抗 E により遅発性に新生児溶血性疾患を認めた児の一例
蓮沼秀和 他（東邦大学医療センター佐倉病院輸血部）
- 0-3. 抗 Di^a による新生児溶血性疾患への輸血対応
小林美佳 他（自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部）
- 0-4. 当院における過去 6 年間の血液製剤の使用状況
小山彩子 他（昭和大学藤が丘病院血液センター）
- 0-5. 当院におけるコロナ禍の輸血使用状況調査
石橋瑞樹 他（東邦大学医療センター大森病院輸血部）
- 0-6. アレルギー性輸血副反応に対して原因アレルゲンの検討を試みた 1 例
柳沢 龍 他（信州大学医学部附属病院輸血部）
- 0-7. コロナ禍における院内献血の取り組み
熊沢朋美 他（東海大学医学部附属病院臨床検査技術科輸血室）
- 0-8. 長距離・高速飛行が可能な最新 eVTOL 型ドローンによる血液搬送
中田悠太 他（伊藤忠商事航空宇宙部）
- 0-9. HEV 陽性通知献血者のデータ統計分布
小野寺 忍 他（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

0-10. 当施設における PC-HLA 供給依頼検査の状況

續槁雅子 他（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

16:40～16:50

休憩

16:50～17:05

特別講演

「輸血分野における国際活動—日本がどのように参加していくべきか」

演者： 津野寛和（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

座長： 高橋孝喜（日本赤十字社）

17:05～18:15

ワークショップ

「最適な輸血チーム医療を目指した輸血業務のタスクシフト・シェアに必要なもの」

座長： 佐藤智彦（東京慈恵会医科大学附属病院輸血・細胞治療部）

座長： 難波寛子（東京都赤十字血液センター事業推進二部）

W-1. 検査技師が血液センターでアフェレーシスするための条件

日下部民美（東京都赤十字血液センター事業推進二部採血一課）

W-2. アフェレーシス担当者に必要なテクニック

中村裕樹（順天堂大学医学部附属順天堂医院輸血・細胞療法室）

W-3. アフェレーシスナースはどのように活動できるか？

吉田琴恵（東京都赤十字血液センター立川事業所採血課）

W-4. 医療機関の看護師は、輸血チーム医療でどのような役割を果たせるか？

石井洋子（船橋市立医療センター看護局）

W-5. 自己血輸血におけるチーム医療とタスクシェア・シフトの実際

森 有紀（国家公務員共済組合連合会虎の門病院輸血部）

18 : 15 ~ 18 : 30

閉会挨拶

例会長： 津野寛和（日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター）

支部長： 岡崎 仁（東京大学医学部附属病院輸血部）

第 156 回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会 事務局

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター検査部

担当：宮城

〒135-8639 東京都江東区辰巳 2-1-67

TEL : 03-5534-7679

Email : reikai156@outlook.jp